



TITLE:

ジーンズ博士とエデントン教授 : 英國學界の双璧

AUTHOR(S):

CITATION:

ジーンズ博士とエデントン教授 : 英國學界の双璧. 星 1930, 4-5: 4-5

ISSUE DATE:

1930-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/169012>

RIGHT:

ジーンズ博士とエデントン教授

英國學界の双璧

此の頃、ひとり英國のみ
と言はず、米國や歐洲大陸
の各地から來る人士に會ふ
と、たれでも皆『ジーンズ
博士の書物を読みましたか？』『エデントン教授の
意見を如何に御考へです
か？』と聞かれる。サー・
オリヴァー・ロチ氏は此の二
人の學者を現代の代表的偉
人だと稱へてゐる。實際こ
の二人の盛名は、日本に居
てはさても分らないほど歐



SIR J. H. JEANS

米に知れて居るらしい。（吾々天文關係者は此の二氏を單に天文
家としての傑物だとのみ見てゐたのだが。）

ジーンズ氏は理論物理學の大家として、電磁氣や力學に關する
著述を以前から發表してゐたが、1915年頃からは天体の平衡論
や宇宙の進化論の方面に研究を進めて、忽ちに理論天文學の大家
となり、殊にラプラースやチェンバリン、モルルトン等の學説を
一蹴して新しい星雲説を樹立し、宇宙論に一新紀元を開くに至つ
た功は偉大である。昨年氏は Sir の稱號を英國王から與へられ
た。著書は非常に多い。家は富裕で、今まで餘り公職に就かない
が、1920—20年頃は英國天文學會長となり、1920年以來はロ
イヤル學會の幹事である。



PROF. A. S. EDDINGTON

エディントン Stanley Arthur Eddington 氏は、1882 年十二月 28 日、英國ケンダルで生れマンチエスタ市のオールデン學院及びケンブリヂ大學のトリニチ學院に學び、1904 年トリニチ學院で首席賞を獲、又 1907 年にはスミス賞を得、同時に同學院のフェロロとなつた。

職務としては、1906 年から 1913 年まで前後 7 年間、グリニチ天文臺の首席 Assistant として、實地觀測と研究とに従事し、前の臺長クリステイ、現臺長ダイソン兩博士を補けたが、1913 年からは故ボール教授の後を繼いで、ケンブリヂ大學に於ける天文學のブリウム講座教授となり翌 1914 年には同大學天文臺長に任せられ、同時にロイヤル學會々員に推された。

氏はグリニチ在職中には恒星の固有運動を研究し、ケンブリヂに移つてからは宇宙引力論や相對原理及び時間空間の原理等を研究し、1919 年にはアフリカへ日食觀測に出張して、アインシュタイン原理を始めて觀測上から立證したこともある。最近數年間は恒星の内部構造及び天体進化論を研究し、絶へず新しい物理學の進歩を宇宙研究に應用せんことを期してゐる。

重な著書は下の通り。

Stellar Movement and the Structure of the Universe (1914), Report on the Relativity of Gravitation (1918), Space, Time and Gravitation (1920), The Mathematical Theory of Relativity (1923), The Interior of the Star (1920), Stars and Atoms (1920), The Nature of the Physical World (1928).